

2009年11月30日

「レクサスLFA」への採用を弾みとして拡大展開を 自動車用途の展開強化に向けた新組織の設置について

帝人化成株式会社

帝人化成株式会社（本社：東京都千代田区、社長：酒井 和幸）は、帝人グループの注力市場である自動車・車両分野について、技術革新を核に事業を展開しており、特定の重点技術領域に資源を集中して、この分野での事業拡大を推進していますが、自動車向け樹脂グレージングへの採用が進んできていることから、ポリカーボネート（PC）樹脂の市場対応力をさらに強化することを目的として、本年12月1日付で、社長直轄の「モビリティ事業推進部」を新設することとしました。

これにより自動車・車両用途に向けた戦略企画機能・マーケティング機能を強化するとともに、プラスチックテクニカルセンター（千葉県千葉市）の素材技術・加工技術開発機能、R&Dセンター（愛媛県松山市）の表面処理技術・次世代素材技術および自動車用PC樹脂製窓の実用化に向けた技術開発機能などを「モビリティ事業推進部」に一元化します。

帝人化成は、今後、実車サイズで自動車・車両部材の試作・開発を行う段階から顧客と共同開発を行う場を提供し、顧客や市場に対するスピーディな対応を強化することで、車体の軽量化など環境対応技術による市場の早期拡大に貢献していきます。また、自動車部材などの川中・川下の加工事業を取り込むことにより、顧客や市場の信頼獲得とともに、素材の付加価値向上を図っていきます。

「モビリティ事業推進部」の新設に先立ち、帝人化成はこのほど、少量生産向け自動車グレージングの軽量化技術を開発、独自の成形加工技術を生かしたPC樹脂「パンライト®」製の樹脂グレージングが、「レクサスLFA」のクォーターウィンドウとパーティションウィンドウに採用され、従来のガラス製品と同等以上の外観特性を有しながら、ガラス素材に対して30%以上の大幅な軽量化を実現しました。

今回、「レクサスLFA」に採用された樹脂グレージングは、PC樹脂「パンライト®」による自動車ボディの軽量化、デザイン自由度を活かしながら、帝人化成が独自に開発してきた射出プレス成形技術を駆使して、押出シートでは得られない外観品質に優れた樹脂グレージングを実現しました。

帝人化成は今後も独自の素材技術・成形加工技術・表面機能付与技術・ソリューション技術を駆使して商品開発に取り組み、自動車・車両用途での「車体の軽量化」という顧客の嬉しさの実現、持続可能な地球環境への対応を図り、地球に優しい技術開発を通

じて、「Human Chemistry, Human Solutions」を実践し、世に貢献していきます。



このたび「パンライト®」が採用された「レクサスLFA」のクォーター・ウィンドウ

以 上